

献 呈 の 辞

経営学部教授森恒夫先生が、2000年3月末日をもって明治大学を退職されることになりました。先生のご指導を受け、先生を慕っているのは、学生・卒業生だけではなくではありません。学内では「森シュレ」という言葉が生まれたほど、学部の枠、教員・職員の枠を越えて、大勢の人々が先生を敬愛しています。その先生がこの度、明治大学を去られるということは、誠に寂寥の極みです。

先生は、1962年4月に専任助手として明治大学に赴任され、1963年に専任講師、1966年に助教授、1971年に教授に就任され、現在にいたる40年の長きにわたって、本学の教育と研究の拡充に多大な功績を残されました。折しも1960年代後半から全国的な規模で学園紛争が激しくなり、大学全体が大きく揺れ動く多事多難な時期が続きますが、先生は大学行政の面でも学生部長、学長室専門員、国庫助成推進会議の本学を代表する委員などの要職を歴任され、激しい学園紛争を契機に巻き起こった大学改革の荒波に真正面から取り組み、大衆化した大学教育や学生自治活動のかかえる諸問題の解決にむけて多大な貢献をされました。

学外においても、経済理論学会の幹事として学会の発展に貢献されたのをはじめ、その他の関係する学会や大学・民間の多くの研究機関でも研究活動の活性化に尽力されてきました。先生は、イギリス財政研究のわが国における第一人者であるだけでなく、宇野弘蔵氏の経済学の方法を継承する論客の一人として、いわゆる原理論から現状分析にいたる広範な研究分野において重要な問題提起や実証研究における大きな成果をあげられ、現在も現代資本主義経済の本質究明に精力的に取り組んでおられます。

この度、先生の在職中のご功績を称えるとともに、多年にわたるご指導に感謝し、本号を先生の退職記念号として刊行することになりました。今後とも私ども後進のご指導をお願いするとともに、先生の益々のご健勝をお祈り申し上げ、献呈のことばといたします。

2000年3月

経営学部長 橋 本 和 美